



♪ふれあいコラム

[バックナンバー]

今、話題の人物をクローズアップ！

2013年8月号 想像力を刺激する能の世界を身近に

のむら しろう
能楽師 野村 四郎さん

能楽界の重鎮として幅広く活躍されてきた能楽師・野村四郎さん。9月15日には港区・赤坂区民センターで『赤坂能』公演とワークショップ『謡と仕舞』の発表会をなさいます。能の魅力と、今回の演目について伺いました。

——能の魅力を教えてください。

答え難いというのが正直なところですが、どの古典芸能にも、視覚的な魅力、聴覚的な魅力、それから精神的な魅力が潜んでいると思います。

能は、能面を身につけて行う仮面劇です。面は“おもて”と言い、それを“かぶる”と言わずに“かける”と言います。私はこのおもてを表裏の表と解釈しています。表現の表でもあり、表（おもて）を通して表現するわけです。技法も独特で、無駄を省き、余計なものを削り落としたエッセンスのようなもの。いろいろな解釈ができますから、見る人によってさまざまなイメージが湧き、想像力が芽生える、それが能です。

一方、お料理は味わってみないとどんな料理かわかりませんね。料理には目分量や火加減など、いろいろな加減があります。美味しい料理は、その加減が大事。能を演じる我々はコックみたいなもので、作品をどう料理して出すか。そこに、能の面白さが存在していると思います。



■プロフィール

1936年東京生まれ。
和泉流狂言方六世野村万蔵家の四男だが、1952年二十五世観世元正宗家に内弟子入り師事、観世寿夫にも師事。能楽界の重鎮として、古典の秘曲や復曲能の上演、新作能の作曲や作舞、海外公演、後進の育成など幅広く活躍。

紫綬褒章、日本芸術院賞を受賞。東京藝術大学名誉教授、日本能楽会会长。

——赤坂能では『船弁慶』を見せてください。

この作品の特徴は、前段で静御前を演じた役者が、後段で平知盛を演じること。違う役を一人の役者が演じるのがポイントです。この面白みは、室町時代には新しい感覚で、歌舞伎ともつながっています。

また、世阿弥の頃の落ち着いた演目と違って、スペクタクルで舞台転換が早くドラマチック。これは、応仁の乱で都が落ちかなかつたことも影響しています。良い作品は時代を反映していますが、その代表的なもののひとつが『船弁慶』といえるでしょう。

——保育園の子どもたちのワークショップの発表会もありますね。

お子さんたちとのお稽古は楽しいですね。演目に『竹生島』を選んだのは「緑樹影沈んで、魚木に上る気色あり、月海上に浮かんでは、兎も波を走るか、面白の浦の気色や」という文章を知つてもういたかったから。「琵琶湖の湖面に緑の樹木が映り、魚が泳ぐと樹に登っているようだ。月が湖面に映り、月の兎がさざ波を走っているように見えた、ああおもしろい島の景色」という内容ですが、こうした夢のある情景を子どもたちに教えてあげたいと思ったのです。

私は小学校三年生の時に集団疎開に行き、親元を離れ寂しい思いをしましたが、この文にとてもなぐさめられました。今のお子さんは“月に兎がいる”という伝承を知らないかもしれません、どんな印象を持ったか、感想を聞きたいと思っています。

——最後にメッセージをお願いします。

人生の中には、いろいろな出会いがあります。今回の赤坂能は、日本の文化と会えるまたとない機会です。ぜひご参加ください。

「赤坂能『船弁慶』」のチケットを販売しています。
詳しくは「[イベント・チケット情報](#)」のページをご覧ください。



野村さんは、物理学会のイベントにパネリストとして招かれ、「この世の中で物理学と能楽が一番わかりにくいと言われている代表です」と話を始められたとか。会場がどっとわき、浮力と重力を舞に例えた話もわかりやすいと好評だったそうです。

[▲このページのトップへ](#)

| [サイトマップ](#) | [みんなの声](#) | [Kissポート財団について](#) | [情報誌「Kissポート」について](#) | [品質・環境への取り組み](#) | [個人情報保護について](#) [PDF] |

Kissポート財団 

(公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団)

港区赤坂4-18-13赤坂コミュニティーふらざ

電話 : 03-5770-6837/Fax : 03-5770-6884 お問い合わせ : fureai-info@kissport.or.jp



このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。当財団の許可なく複製、転載は出来ません。